



教育学部オープンキャンパス

8月4日(土)、島根大学教育学部のオープンキャンパスが行われました。会場となった大学ホールと20番教室には、島根大学教育学部への進学を考えておられる高校生や保護者の方々がたくさん集まっておられました。

島根大学教育学部が求める学生像というのは、募集要項にもあるように以下の3つに集約されます。

1. 高等学校までの基礎学力を備えており、向上心をもって主体的に学ぼうとする人。
2. 豊かな人間性、子どもに対する愛情、教育的情熱を有する人。
3. 教師に要求される幅広い教養と専門的知識・技能を身につけ、社会の発展に貢献しようとする人。

午前中のオープンキャンパスは、学部教員が教育学部の特色や魅力についてお話ししました。その後、教育支援センターが担当した【学生フォーラム】が行われました。【学生フォーラム】では「1000時間体験学修報告会～未来の後輩たちへのメッセージ～」という題目で、3組の学生たちがそれぞれの思いを語りました。島根大学教育学部では、「1000時間体験学修」に取り組んでいます。この取り組みは、学校や地域に積極的に出かけいき、子どもたちとの関わりを持つ「基礎体験領域」、附属幼稚園・小学校・中学校を中心に行われる学校教育実習Ⅰ～Ⅵや、いじめや不登校などの様々な教育課題について学ぶ臨床・カウンセリング体験を含む「学校教育体験領域」の2つの領域から成り立っています。【学生フォーラム】は、この2つの領域についての学びについて発表しました。入学してから4カ月余りの1回生は、「学校教育体験領域」から「学校教育実習Ⅰ」を中心にした学びを発表しました。大学生になって、仲間と仲良く協力して大学生活を楽しんでいることがよく伝わりました。2回生は、「基礎体験領域」での学びを、3回生は、「基礎体験領域」「学校教育体験領域」を合わせた学びを発表しました。上回生は、これまでの体験を通して、自分自身にどのような学びがあったのかを振り返り、熱意ある言葉で語っていました。島根大学教育学部生が取り組んでいる1000時間体験学修がどのようなものか、島根大学教育学部で学ぶことで身に付く教師力とはどのようなものか、発表した学生たちの姿からも伝わったことと思います。

午後からは、専攻・コース別の入学体験、入試概要についての説明・個別相談会等があり、附属図書館やミュージアムの公開、学生寮の見学などもあり、施設の充実ぶりを見られました。

今回のオープンキャンパスでの学生たちの言葉は、聞いてくださった高校生や保護者の方々にとって、これからの進路選択の参考になれば幸いです。ぜひとも本学で共に学びましょう！

SHIMANE UNIVERSITY
OPEN 2018
CAMPUS

学生フォーラム発表者より

今回の発表を振り返る際、まず、「リーダーシップ・協力」の面では、他の仲間がとても頼れる人々だったので、4人で一緒に助け合いながら準備することができたので、目標を達成することができたように思います。また、「探求心」という面では、仲間と協力しながら、よりよいプレゼンをつくっていかうと、最後までやり抜くことができたのがとても良かったです。このメンバーで約1か月間準備し、このような場で発表できたことをとても嬉しく思います。

今回、自分自身の「伝える力」をさらに伸ばすことができました。パワーポイントの作成も初心者で、難しかったけど、とても勉強になりました。リハーサルでは実際の会場で発表することで、自分自身の改善点を洗い出すことができました。そこでの反省点を踏まえて、プレゼンの内容を練り直し、今回、更により良いものを創ることができたと思います。大学ホールいっぱいの人を前にして話をする機会は、なかなかないので、とても良い経験になりました。私のプレゼンを聞いて、島根大学教育学部で学ぼうと思ってくれた人がいたら嬉しいです。

今回、初めて1つの発表に向けて何回もみんなと集まって、事前に準備する活動を行いました。たくさん時間を使って準備した分、終わった後の達成感をいつも以上に味わうことができました。最初は、あまり話したこともないメンバーと協力するので、不安な気持ちもあり、上手くコミュニケーションがとれるか心配でした。しかしながら、結果的にとても良い仲間恵まれ、楽しくコミュニケーションがとれて嬉しかったです。さらに、自分自身が伝えたいことを上手く伝えることができるように、プレゼン能力をもっと高めていきたいです。

今回、1000時間体験学修をプレゼンするという事で、プレゼンをつくる上で、今まで自分がどんな活動をしてきて、その度にどんな学びをしてきたか、どんな気持ちを感じていたのかということ振り返るととても良い機会にもなりました。自分のこれまでの学びを振り返ることで、改めて自分自身への理解が深まったし、新たな気づき・発見もありました。そして、何よりも、これからどういう風に1000時間体験学修に関わっていくのか深く考えるようになりました。このような発表の機会を与えてもらい、たくさんの仲間に出会えたというのは自分にとって大きな財産だと思っています。

